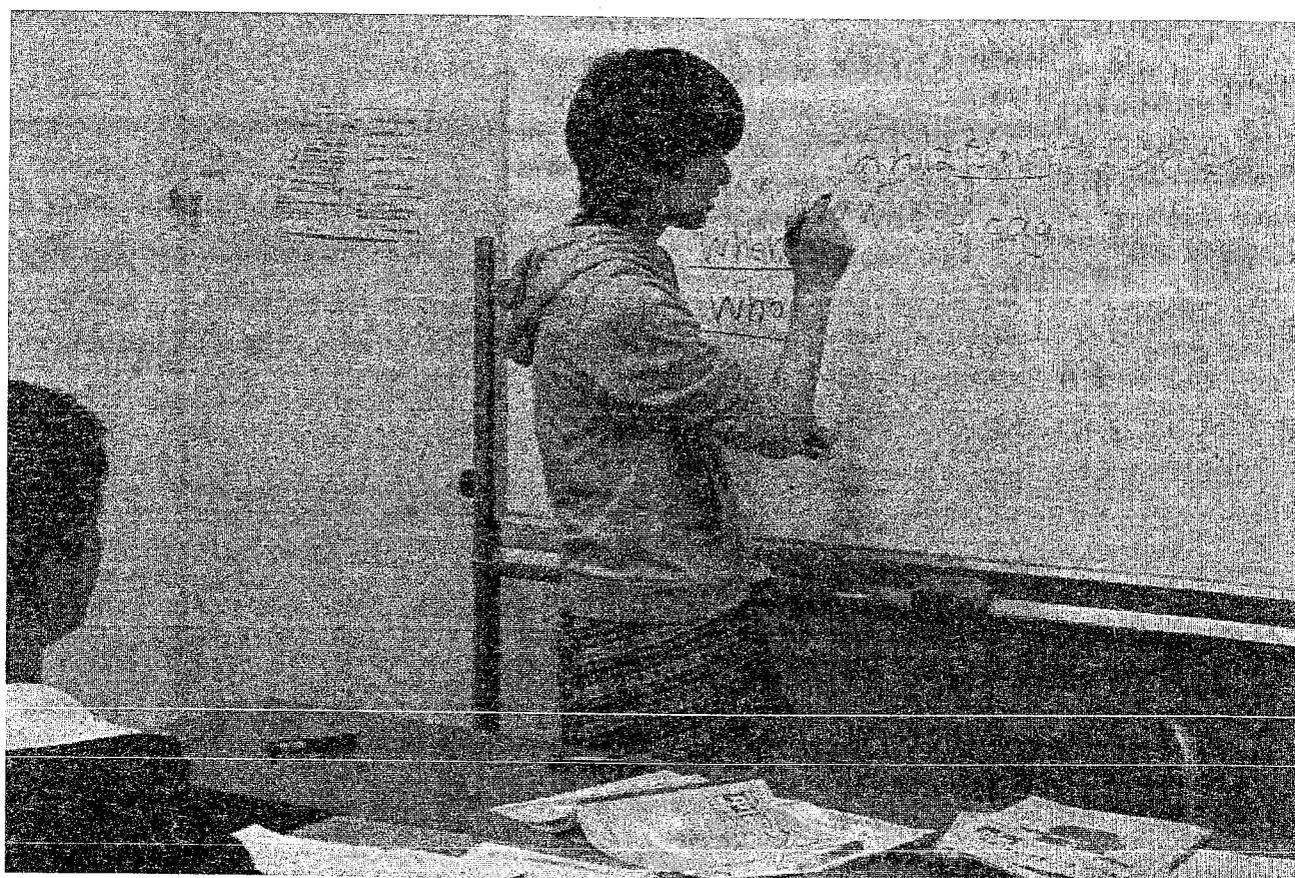




学びあい、わかりあう

mingle

みんぐる



たぶんかフリースクール、英語の授業

2011 卒業おめでとう	1
何があっても子どもたちのために / インターンの声	2
「FITチャリティーラン2010」贈呈式が行なわれました	3
最近の活動報告 親子日本語クラス 学習支援・子どもプロジェクト	4
新しい調査報告書ができました	5

たぶんかきょうせい とうきょう 多文化共生センター東京とは…

たぶんかきょうせい とうきょう はんしんあわじだいいんさい さい がいこくじんひさいしや じょうほうていきょう おこな たぶんかきょうせい
多文化共生センター東京は、阪神淡路大震災の際に外国人被災者に情報提供を行った「多文化共生センター」
とうきょうじむじょ ねん がつ かいせつ ねん がつ たぶんかきょうせい とうきょう どりつ どうねん がつ ほうじん
の東京事務所として2001年4月に開設。2006年4月には多文化共生センター東京として独立し、同年5月にはNPO法人と
して認証されました。外国にルーツを持つ子どもたちへのきょういくじぎょう ちゆうしん こぞだ しえんなど
人材育成や情報提供など多文化共生を広める事業を行っています。

わたしのりねん 私たちの理念

■**基本的人権の尊重**…「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が
損なわれる不公正を是正する。

■**少数者への力づけ**…自分の文化や言語を享受できる環境づくりや、安心して自分らしくいられる居場所づくりに
より、少数者自らが自分自身を支えていく。

■**社会へのアプローチ**…多数者である日本人が少数者の状況や、多文化共生社会の意味・大切さ(大変さ・楽しさ)
を理解し、日本人・日本社会自身が変わる。

かつどうないよう 活動内容

<外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業>

たぶんかフリースクール

がいこく きこ
外国から来た子どもたちが毎日通え、日本語や教科を
べんきょう ますな ぼ ていきょう かようび きんようび
勉強する学び場を提供しています。火曜日～金曜日
ごぜん がいこく ちゆうがくせい
午前・外国から荒川区内に来たばかりの中学生
ひる さい こ ちゆうがっこう はい
昼…15歳を超えて来日し、日本の中学校に入らず、
どこにも学び場のない子どもたち
よる ひるま しょう ちゆうがっこう かよう
夜…昼間は小・中学校に通う子どもたち

教育・進学相談

しんがく へんにゆう きょういく かん そうだん
進学・編入など教育に関する相談に、
でんわ らいしよ たいおう
電話や来所でも対応しています。また「日本語を母語とし
ない親子のための高校進学ガイダンス」を、多言語(6
げんご ただんたい じつこういんかいけいしき かいさい
言語)で、多団体と実行委員会形式で開催しています。

学習支援・子どもプロジェクト

おも こうこうしんがく めざ こどもたちへ
主に高校進学を目指す子どもたちへ
ボランティアベースで教科や日本語の学習支援と、
アクティビティ等による居場所づくりを行っています。
■活動日：毎週土曜日3:30～5:30

教育に関する調査活動

とうきょう く がいこく も こ
東京に暮らす外国にルーツを持つ子ども
たちに関する教育実態調査を行っています。

<外国人の家族と子育て支援事業>

親子日本語クラス

しょうがくせい以下の子ともと外国から来た親を対象に、生活
に必要な会話や読み書きをボランティアと一緒に学
教室を開いています。
■活動日：毎週土曜日 1:00～3:00

<多文化共生に関する人材育成・情報提供事業>

多文化共生のための人材育成

多文化共生に関する研修への講師派遣や、
活動に関わるボランティアやフリースクール講師等を
対象とした研修会を行っています。

情報提供 (広報チーム)

ほんし「minglet」(年4回)、会員へのメールニュース「多文化
だより」(月1回)、メールマガジン「多文化News from Tokyo」
(月1回)等を発行しています。■活動日：随時

ボランティア募集中! (裏表紙へ)
現在、子どもプロジェクト・親子日本語クラス・広報チ
ームでは特にボランティアが不足しています!



3月19日、たぶんかフリースクールの卒業パーティーがおこなわれました。

地震の影響で多文化共生センターの建物を使うことができます、
「あらかわ文化村」の施設をお借りして
の開催でした。

当日は地震の影響にも関わらず、3月に多文化を卒業する生徒たちだけでなく、フリースクールの先生方やボランティアのみなさんや卒業生までたくさん集まってくれました。

生徒たちは照れくさそうに笑ったりからかいあったりしながら、先生方やボランティアのみなさんがきれいに飾り付けてくれた会場へ、拍手で迎えられて入場。

ひとりひとり一言ずつ質問に答えて話した後、講師の先生方やボランティアの方からメッセージをいただきました。

たぶんかフリースクールらしい、にぎやかであたたかい卒業パーティーでした。

たぶんかでいちばん楽しかった思い出はなんですか？

遠足！

みんなでひたち臨海公園に行きました

日本にきていちばんびっくりしたことはなんですか？

地震...。とても怖かったです

たぶんかで仲良くなったともだちにメッセージを伝えてください

これからもずっとともだち！

たぶんかの先生たちにメッセージをつたえてください

ありがとうございました。

今の僕がいるのは、

先生たちのおかげだと思います。



夢は大きく！ はばたけ、未来へ！！

なに 何があっても子どもたちのために・・・

東日本大震災で被災された皆様、避難をされているみなさん、心からお見舞いを申し上げます。ご遺族の方々にはお悔やみの言葉も見つかりません。まだまだご友人やご親戚の方々の安否を気遣われている方も少なくないでしょう。

地震当日、旧真土小学校の体育館は天井の内装が剥がれたりしました。しかし、フリースクールの先生や生徒は無事に校庭に避難しました。また、多文化共生センター東京では物の被害も出ませんでした。大勢の生徒と先生たちは当日、帰宅困難者になりました。

その夜、電車の不通などで帰宅できなかった生徒たちはスタッフと一緒に、荒川区内の施設で一夜を明かすことになり、子どもたちは修学旅行みたいにはしゃぎ、笑い、話し、一晩中友情を深めました。先生方は交通情報などの情報収集、みんなの食べ物の買い出し、毛布などを配って奮闘し、そのあと早めに眠りにつきました。

旧真土小学校は古い建物であるために荒川区が万が一の余震被害を懸念し、3月25日までは原則、施設使用を控えるようにと言われました。そこで、多文化共生センターは仮設事務所で活動することになりました。

3月末に定時制高校の入試試験を控えている生徒が2人いて、教室などの使用を制限されている中で急遽、荒川区社会福祉協議会のご厚意により施設「ふらっと、フラット」の片隅をお借りすることができました。仮設事務所では、高校進学相談、入学手続書類の作成サポート、入学試験に向けてのサポートを、先生方が出来る限りしました。後日、受験生の報告などにより無事合格を確認することができて、先生方は大喜びでした。

荒川区社会福祉協議会のみなさん、助けて下さった皆様、ご心配をいただいた皆様、どうもありがとうございます。

今度自分が助ける側に

自分はいろんな人に助けられてここまで来られました。小学校の時に日本語もわからないまま日本に来て、僕は新天地で生活することがどれだけ難しいかを痛感しながら生活していました。新しい言葉を交わすことや新しい学校に入る、新しい友達を作るなど、どれを取っても容易にできることではないと、わかっています。もし、周りの助けがなければ僕はここまで来られませんでした。

数年が経ち僕は大学生になり、今度は自分が助ける側に回りました。親の知り合いから、初めてCCSについて知りました。そこには、初めて日本に来た時の僕みたいな子どもたちがいっぱい居ました。僕にはこの子らが今、経験していることが伝わってきました。僕ならこの子たちの立場になっっているいろんなことを教えられる、助けられると思いCCSに入りました。そこでは、わからないことはタガログ語で

インターンの声

説明しながら子どもたちに宿題などを教えていました。

多文化共生センター東京は、教え子だった子の担任の先生から勧められて知りました。多文化には、より多くの日本に来て間もない子どもたちが居ることを知り、僕にできることが絶対あると思い、多文化共生センター東京に通うことにしました。

僕はこう見えても結構人見知りなので初めは結構緊張していましたが、自分の高校の中国語の先生だった王さんが居ることを知り、そっと胸を撫で下ろしました。子どもたちのパワーには圧倒されていましたけど、すぐに溶け込めて仲良くなることができました。

僕は、これから自分ができることを全部やり、子どもたちを手伝っていいと思います。

FIT チャリティーラン 2010

ぞうていしき おこ

贈呈式が行なわれました



「第6回FIT チャリティーラン 2010」は、金融関係の企業 50社余りが、社会的な認知不足等の理由で十分な資金を確保できないNPOへの寄付によって社会貢献し、NPO関係者も含めた参加者が短距離マラソンやウォーキングで楽しく汗を流そうという催しで、2010年の11月7日に行われました。

支援されるNPOの一つには多文化共生センター東京が選ばれ、当日は20名ほどの関係者が催しに参加しました。「第6回FIT チャリティーラン 2010」、ランナー、ウォーカー、ボランティアは総勢6,716人が参加し、寄付金の総額は、過去最高に上ったそうです。 <http://fitforcharity.org/ja/>

2月2日には贈呈式が行なわれ、ご寄付をいただいた企業の皆様に、代表の王より、あらためて多文化共生センター東京の抱える課題と、「寄付金の使途」をプレゼンテーションしました。

◆◆ 寄付金の使途 ◆◆

荒川区にある現在の校舎は、再開発地域指定により、いずれ取り壊される予定です。

寄付金は、移転および開校資金に使用いたします。

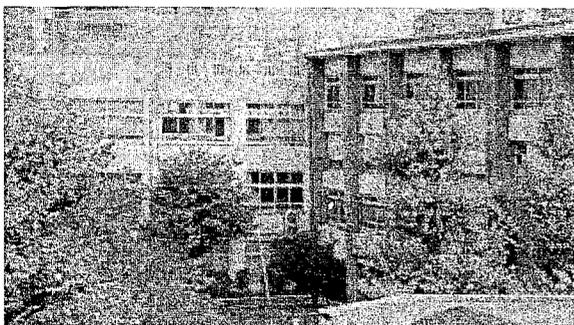
多摩地区には多くの外国にルーツのある子どもたちが住んでいますが、荒川区まで通学が困難です。

寄付金によって、多摩地区により近い場所での移転および開校をめざします。

Existing premises in Arakawa are part of a redevelopment project and are due for demolition.

The donation will help MCT identify and set-up new premises.

Many migrant students live in the Tama area and have difficulty getting to Arakawa.



旧真土小学校舎

皆様のご寄付・ご関心は、今日、明日の活動だけではなく、

私たちの中・長期的な活動に繋がっていきます。

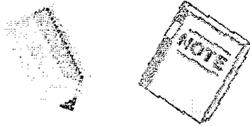
また、何よりもあたたかいお心遣いが、

スタッフや生徒には何物にも代えがたい支えになります。

心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました。

最近の活動報告



親子日本語クラス

3月11日に起きた東日本大地震を境に、活気と喧噪に満ち、すべての教室、すべての机が埋まるほどのにぎやかさだった土曜日の学習支援も、様子が一変しました。

余震に備え、3月いっぱいはい教室が使えず、また、不安の中、多くの子どもたちが母国へ帰っています。せめてもの救いは、ほとんどの子どもたちの入試が一段落した後、入試への直接の悪影響がなかったことは良かったと思います。

親子日本語クラスでは、乳幼児から小学生の子どもを抱えた外国出身の親子を中心に、子育てや生活に必要な日本語を地域住民(ボランティア)と共に学ぶと同時に、子育てや子どもの教育、生活の悩みについて話し合う場をつくることで「居場所づくり」と「多文化子育て」を応援

しています。

3月11日の地震以降、事務所が使えなかったため3週間教室をお休みにしていました。一時帰国する家族や子ども、帰国したのか連絡がつかなくなった学習者も多く、4月2日からクラスを再開したのですが、学習者は1人でした。

翌週9日は2人になり、今週には一時帰国していた子どもも日本に戻ってきて、また少しずつですがにぎやかさを取り戻しそうです。

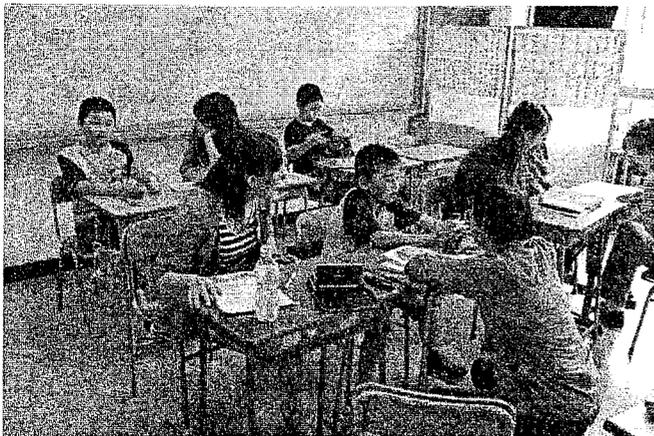
親子日本語クラスでは、新たな学習者を募集しよう、募集チラシを改定して、配布する予定です。春は何か新しいことを始めるには良い時期でもあり、ボランティアも増える時期でもあるので、学習者もボランティアも増えて、にぎやかなクラスになることが期待されます。

子どもプロジェクト

新学期がスタートしてからも、第一回目、4月2日は、参加者のうち、受験生は1人だけ、高校生や非受験生を含めても数人という状況でした。

いつものにぎやかさを取り戻すのはしばらく時間がかかるかもしれませんが、こんな時だからこそ、きめ細かな対応で子どもたちを勇気づけ、元気づけられればと思います。

新学期の節目の機会を利用して、学習報告(学習した内容の情報共有)のリニューアルについての検討も始めました。新しい学習報告は、カルテ方式(個人別の紙ファイル)で、初めて教える子どもであっても、過去の履歴がすぐにその場で一覧できます。学習報告も方式によって、メリット、デメリットがありますが、より充実した学習支援のために、ボランティアの試行錯誤が続いています。



親子日本語クラスで小学生の子どもに日本語を教えている様子

調査プロジェクト

あたら ちようさほうこくしよ
～新しい調査報告書ができました～

ねん がつまつ とうきよと がいく こ
2011年の3月末に『東京都の外国ルーツの子どもたち
こうこうしんがく かん じっだいちようさほうこくしよ ほうこく
の高校進学に関する実態調査報告書』を発行しました。

たぶんかきようせい とうきよ とうきよと がいくせき
これは、多文化共生センター東京による東京都の外国籍
じどう せいと かん じっだいちようさ きつめ
児童・生徒に関する実態調査の6冊目となるものです。

にほんせき ふく がいく こ きよういく かん
日本籍も含む外国ルーツの子どもたちの教育に関して
は、これまで、①「不自由な」日本語、②不就学、③低い高
こうしんがく もんだい ていき ちいき
校進学、といった「問題」が提起され、地域NPO/NGOを
ちゆうしん がっこうきよういん けんきゆうしや しえん じっだい
中心に学校教員や研究者などによって、支援や実態
ちようさ ぎようせい はたら ときかけと といつと りく
調査、行政への働きかけといった取組みがなされていま
す。グラスルーツ的な懸命な努力の成果もあり、今日では、
けつ じゆうぶん い じちたい
決して十分とは言えませんが、①と②については、自治体
くに とりく おこな
や国による取組みも行われるようになりました。だが一方
で、③の高校進学に関しては、行政の問題認識がまだ低
く、地域レベルの取組みにおいても「高校に進学する」と
いうことが第一の目標とならざるをえない状況です。し
かしながら、子どもたちにとって、高校は将来の夢に向け
きちょう まな ば しゃかい で ちから じしん
た貴重な学びの場であり、社会に出ていくための力や自信
かくとく ば
を獲得する場であるはずです。

ちようさほうこくしよ
調査報告書

ちようさほうこくしよ ねんど あら こうこう
このような問題意識から、2010年度は、新たに「高校
しんがく ちようさ
進学アンケート調査」と「たぶんかフリースクールからみえ
てくること」を加え、進学率だけではわからない、外国ル
ーツの子どもたちの高校受験・進学の実態と問題点を解明
することをめざしました。

やかんちゆうがっこう きようりよく え おこな こうこう
夜間中学校や CCS などの協力を得て行った高校
しんがく ちようさ かいとうしやそうすう めい かし
進学アンケート調査の回答者総数は214名です。限られ
たネットワークを活用して調査対象者を求めたために、
ぼしゆうだん て ばあい だいひようせい こんご かだい のこ
母集団に照らした場合の代表性は今後の課題として残っ
ていますが、2010年度都立高校在籍者総数1,136人中、
とりつこうこうしんがくしや じん じゆけんじようきよう ぶんせき
都立高校進学者158人の受験状況を分析しています。
さらに、たぶんかフリースクール生たちの高校受験状況
しようじゆつ りようてきちようさ じっだい かだい
の詳細は、量的調査からはわからない実態や課題を
してき
指摘しています。

ほうこくしよ けいき ひとり おお ひと こんなん
この報告書を契機に、一人でも多くの人が、困難な
じようきよう がいこく がいく こ
状況におかれている外国ルーツの子どもたちの存在に
かんしん かれ かのじよ げんじよう しょうらい しんけん かんが
関心をもち、彼/彼女たちの現状と将来を真剣に考え
ることを切に願っています。ぜひお読みください。

こうこうしんがく しようす
高校進学ガイダンスの様子

東京都の外国ルーツの子どもたちの
高校進学に関する実態調査報告書

2011年3月

多文化共生センター東京

